持呼

吸

つくように

ゆ

つ

たりとした気

13

. ۲ °

短

€ 1

あ

りふ

れた言葉ば

せ、

方を味

わえるのが、

年賀状を書

ŋ て

を

ねてしまうけ

れ

でもど

間

新

( V

葉書を手に、

b

本当の 連

気持ちで、

そ ど、

れ

が

L

れこれと、

息つく暇もない。

言葉に想

いをのせて

そんなあわただしさの中、

の準備

新しい

年に向けた 押し寄せる行

0 な

ための冬支度、

雰囲

気が漂う。

本格的,

な寒さ せ

浮

かべながら、

「お元気ですか?」

「会いたいですね」と言葉を綴

年

の

後

の

月

を

迎 たえ、

わ

L

宛先を確かめ、

懐かし

i s

顔を思

か

り

€ √

吐

かり薄着で外に出てし

ま

きびす思い

の

ほ

か冷

た

踵を返すことに。

だ

か 自 は暖かいからと、

つ

いうっ

陽

の当たる部屋の

中

## 冬の寒さと

# 直筆の温かさ

らない 頃からまだたっ 参って、 ほどですが、 Ì かなと思ってい の暑さに心身とも 早く夏が終 たの 暑 61 3 ケ 方 た わ が

> 節は冬。 明 と は 体 強 な寒さの 7 がは暮 もっと苦手。一 んどを自然との ζ シ 暑さも苦手だけど寒さ の 芯に突き刺さるよう なってきて だったなと思うほ 実は一 れる私ですが、 足音が少しず 番好きな います。 年の 戦 i s そ K ほ つ

も堪能、 そん ウト

するほ 過ごしやす

どの間

 $\mathbb{H}$ 

-の気温

の

中

でウト

こい 中

の

間

まで

暖

してい

たものですが

な

期

く過

ぎ去ってしま

11

・まし 自もな 時

気持ちは高ぶってきます。 な割に冬に 澄んだ空気に広がる白 息。 ら 分が生ま か、 霜が降りて 寒い なるとなぜ れ たの の が苦 が冬 朝 か H 手

澄み渡る世界

第335号 発行所 文通村事務局 編集 広報部 千葉県成田市

F



もり。 は に 感じられ 輝 く 草 末。 な 他 c J 布 の 団 季 節

れ

か

5

寒さが て辛

ょ

ŋ

お

知らせ

日、い

が

と言えるもの。 くさんあるものです。 味わえない冬の つくだけでも意外とた 寒 どれも寒くなくては いの は辛 いことだけ 「風物詩

あると書かれてい 歩く様でさえ、 一鉢を持って廊下を渡 も雪や霜だけでなく、 清 少納言の 『枕草子』 季節 ・ます。 感

そんな今だけ

の

風

景 れ

の上 とをお まで

ポ

ストに投 近くの郵便局

函して下

さ 認

で

確

ません。

震える

61

61

る場合は

れる日前 務

到着するこ (22日)

に

事

局

に到着

です。

す。送りたいお手紙がた12月発送日は25日の予

あ定

12月の発送

それは思 の 温に る、 と外出してみるのも を羽織って敢えてちょっ 増えてくることでしょう。 ような寒さだから見ら かもしれ そんな時 厳しくなっ ح

は一枚多く上着

字を書い して言 んて言葉も聞くようになり、 からこそー! りする枚数は減 新しい年を迎える準 るように思う。 伝 戸葉を置 しわるようにといつもより 年 て ر در در 間 枚 の記 € 1 て 枚に思 憶 年賀状じまい 61 つて を く。 辿 備 るように 11 13 る。 を巡 の b 時 Þ だ ŋ

#### 風に揺られて誰かに届け

#### 風船便

風船便はいつでのままでは 風船便はいつでのです。 現の方へ優先されます。 親の方に届くかは風次第便切り が下は簡単へ下の風船便切った方は が下の風船便を受け取った方へ」 に「風船便を受け取った方く」 を切り取った書くだ 差出人名を書くだ

と書では、事務に 局宛の返信 用封筒に同 封下さい。 今までにな い交流の始

です。

まり



## ★感想・体験談

傾 報を伏せた上でご紹介させ て頂きます。 は事務局宛てのメモや便 で掲載させて下さ 皆さんのお声をウェ 何でも たメッセー 有り難い 61 ・つも、 ジは個人情 ・です。 事 方法 ブ 上 務 せ

### 文通村

の

お手紙あり

がとう

ござ

います。

この場

謝申し上げます。